

体験するから、考える。行動になる。

福祉実践教室

総合的な学習の時間や道徳などに。

障がいの疑似体験や、当事者から普段の生活の様子を聞いたりすることを通し、福祉を自分ごととしてとらえ、日常で実践できるきっかけとなることを目指します。

総合、道徳、家庭科などの授業に、幅広くご活用下さい。



豊富な全9科目

様々な体験科目をご用意。児童・生徒の興味・関心に合わせて選んでいただくことができます。

当事者講師だからリアル

講師はこの地域の障がい当事者や支援者です。実生活での現実味ある話題を提供しています。

学校の費用負担なし

講師料を社会福祉協議会が全額負担しますので、無料で実施していただけます。

年間に何度でもご利用可能

学校ごとの実施回数に制限はありませんので、年間に複数回の実施も可能です。

実施科目

① 車いす

車いす操作や介助する側とされる側の体験に加えて、当事者の体験談や普段の暮らしの様子を聞き、障がいへの理解につなげます。

② 手話

あいさつなどの簡単な手話の体験をはじめ、聴覚障がい者が日常生活の中で困ることや解消する手立てなどについても伝えます。

③ 点字

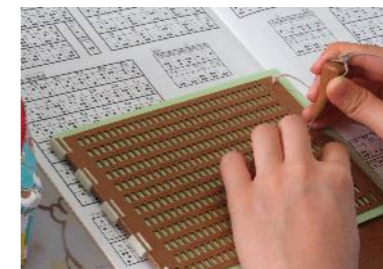
よく目にはしていても、あまり知られていない点字。その使われ方や読み方を知り、実際に点字版を使って簡単な点字を打ってみます。

④ 要約筆記

聞こえに障がいがある人と、書くことでコミュニケーションを図る方法を、実際に当事者講師とやりとりをしながら進めます。

⑤ 視覚障がい者ガイド

アイマスクを使って目の不自由な人の疑似体験と、それを介助するガイド役の体験をします。講師の日常生活での工夫などにも関心が集まります。



⑥ 高齢者疑似体験

装具や重り、ゴーグルなどを装着して高齢者の身体的機能低下を体感します。介助体験は日頃の自分にできる支援を考える手掛かりにもなります。

⑦ 盲導犬

盲導犬ユーザーが盲導犬との暮らしについて伝えます。盲導犬協会職員がPR犬と同伴で盲導犬の役割を伝える講話の場合もあります。

⑧ 発達障がい

発達障がいがある人の感じ方を、いろいろな方法で体験します。障がいの特性や普段の生活の様子を知ること、障がいへの理解につながります。

⑨ いじめ防止

自己肯定感、他者を認める気持ちを大切にできるよう、「友だち」との関わりについて個人やグループワークを通じて考えを深めます。

より深く学べるお手伝いも

体験学習だけにとどまらず事前学習や事後学習なども含め、総合的に福祉の学習をサポートする『福祉教育プログラム』もご提供しています。詳しくは、裏面をご確認ください!!

【お申込み・お問い合わせ】

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

電話 0564-47-7955 Eメール okashavc@m2.catvmics.ne.jp

体験だけでは得られない 深い学びがここにある。

福祉教育プログラム

「楽しかった」、「かわいそう」で終わらない福祉学習

福祉実践教室は体験学習が中心のため、児童・生徒の感想は「体験が楽しかった」、「障がいはいかかわいそう」という感想が多く挙げられていました。

福祉教育プログラムでは障がい者や高齢者である当事者と、日頃からサポートしている支援者のチームを講師として派遣し、当事者の生活や特性を正しく知る事前学習や当事者体験と支援者体験を行う体験学習、さらにはこれまでの学習を振り返り、児童・生徒一人ひとりの学びやこれからの取り組み等に繋げていく事後学習を1つのパッケージとして提供します。

児童・生徒が正しく知り、よく考え、行動に繋がる「福祉教育プログラム」を活用してみませんか？



豊富な全11科目

様々な科目をご用意。児童・生徒の興味・関心に合わせて選んでいただくことができます。

当事者講師だからリアル

講師はこの地域の障がい当事者や支援者です。実生活での現実味ある話題を提供しています。

学校の費用負担なし

講師料を社会福祉協議会が全額負担しますので、無料で実施していただけます。

1年間の実施校数の制限あり

年間に複数回の実施も可能ですが、現在は先着5校程の実施となっています。

学習内容は自由自在

福祉教育プログラムは児童・生徒や先生の要望を基に学校独自のプログラムを作成します。

可能な授業時間で実施

学校で確保できる授業時間数でプログラムを作成します。最低3時限から実施できます。

先生の事務負担を可能な限り削減

授業プログラムは先生から聞き取らせていただいた情報を基に社会福祉協議会職員が作成。

他校の福祉学習を参考に

これまでに実施した他校の福祉教育プログラムや成果をご紹介します。



実施科目

福祉実践教室に3つのオリジナルプログラムを加えた11科目

福祉実践教室で実施することができる「車いす」、「点字」、「視覚障がい者ガイド」、「盲導犬」、「手話」、「要約筆記」、「高齢者疑似体験」、「発達障がい」、「いじめ防止」の9科目に加え、「赤い羽根共同募金」、「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」、「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」のオリジナルプログラムを追加し、11科目から選択し実施することができます。

10 赤い羽根共同募金

学校でも募金活動をしている赤い羽根共同募金。何のために募金が集められ、誰のために、どのようなことに使われるのかを知り、社会の一員であり地域の支援者であることを知り、赤い羽根共同募金の重要性を学びます。



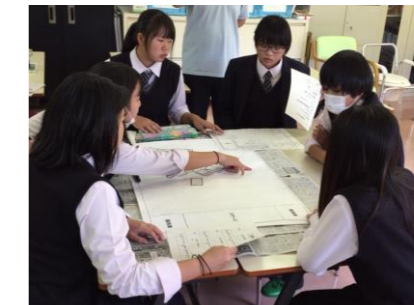
11 防災を通して地域の支え合いを学ぶ

災害時の救援活動や地域を早期復旧、復興するためには地域で暮らす住民が支え合い、助け合う必要があります。地域の防災活動を通して地域をよく知る地域住民から話を聞いたり、一緒に災害に関する体験をしながら地域住民の支え合い活動の現状を知り、児童・生徒も地域住民としての役割に気付き、支え合い、助け合い活動の一員になれるよう学びます。



12 避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える

災害時には障がいがある人、けがをしている人、病気の人、元気な人も、地域にいる乳幼児から高齢者までいろいろな人が避難所に避難します。避難所という誰もが使う可能性がある学校の体育館(避難所)をモデルにユニバーサルデザイン(誰もが使いやすい環境)を避難所運営ゲーム(HUG)やさまざまな福祉体験を通して考えます。



【お申込み・お問い合わせ】

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

電話 0564-47-7955 Eメール okashavc@m2.catvmics.ne.jp